

平成 30 年 8 月 9 日 (木)

**G-サイエンスツアー 1日目 現代知の最前線へ**

長野県教育委員会が行うサイエンスアソシエーション事業の支援により、「現代知の最前線へ」をテーマとするサイエンスツアーを実施しました。

【8月9日(木)】

国立天文台では、第一赤道儀室に設置された重錘式時計駆動の赤道儀の仕組みや、日本最大の屈折望遠鏡が設置された天文台歴史館の木製ドームに活かされた造船技術や可動式の観測床など、天体観測を支えてきた技術や工夫について説明を受けました。続いて望遠鏡や天文学の歴史と、次世代の望遠鏡TMT (Thirty Meter Telescope) の性能や期待される役割など、天文学の過去、現在、そして未来を繋ぐお話しをしていただきました。

午後は、コースに分かれて岩波書店と、東京海洋大学へ向かいました。岩波書店では、10年ぶりに改訂された広辞苑について、お話を伺いました。「社会の状況を踏まえ、日本語として定着した言葉」として「クラウド」「ちゃらい」などの言葉を新たに追加したそうです。

東京海洋大学では、大学内の展示施設と研究室見学を行いました。大学内の展示施設であるマリサイエンスミュージアムでは、海洋生物を中心とした剥製や新種に関する解説をしていただきました。実物大のクジラの歯や骨格に触れる経験と東京海洋大にしかない新種の標本を見ることができました。また、後半では水族養殖学研究室の見学を行いました。アクアポリックスという魚の養殖と水耕栽培の融合に関わる研究施設の見学とティラピアやクエといった魚類の循環型養殖に関する環境の制御に関するお話を聞きました。研究というものがあるのに進められ、どのような発想が大切なのか学ぶことができたとともに、養殖により育てられたティラピアを試食し、味覚も楽しむことができた研究室訪問となりました。

